

消防団長紹介

高槻市消防団 団長 前野 茂

鎌倉時代に高月の地名が起こり、「月」が「槻」に変わったのは、夕日の影が生駒山まで届くという槻（けやき）の大木に因むという伝承があります（諸説あり）。芥川城や高槻城が建立され、江戸時代には、淀川の治水、西国街道の宿場町、富田の酒場等で栄えました。高槻市が誕生したのは昭和18年1月1日、明治22年町村制施行以来、様々な町村合併を経て、現在に至ります。高槻市は大阪市と京都市の間に位置し、歴史的遺産（古墳や史跡）も多く、北端はみどりの北摂連山、南端は水の淀川で区切られ、水と緑の豊かなまちです。是非一度お越しく下さい。

高槻市消防団は、昭和14年高槻市警防団を組織し、昭和22年に高槻市消防団へ改組しました。その後、町村合併にて各消防団とも合併し、昭和42年に定員800名へと増強、大阪府下最大の消防団となりました。高槻市消防団は団本部1、各地域11分団55班から成り、地域毎に連携訓練等を行い、地域防災の要として活動しています。現在では女性消防団員も加わり、火災や、警戒活動だけではなく、地域の祭りやイベントに参加し、防火防災の啓発活動を行っております。

私は、昭和49年拝命以来、班長、部長、副分団長を務め、平成14年に分団長、平成19年に副団長、平成30年には団長となりました。各功労賞や精績章等を頂き、平成23年に藍綬褒章を頂きました。

私が記憶に残っている出来事といえば、平成30年6月18日7時58分に発生した大阪府北部地震です。震源地は本市で震度6弱を観測し、大阪府でも初めて震度6以上を観測した地震でした。消防団員を拝命して40年余り、団長として1年目の私にとって、これほど大きな地震対応をするのは初めてでした。私は直ちに消防本部に設置された特別警備本部へ参画し、各分団に管内被害状況把握のため巡回活動を指示しました。

市内では、屋根瓦の崩壊等多数発生したため、道路啓開活動（瓦礫除去）や地域住民への支援物資の配布を指示しました。地震発生日以降刻々と変わる住民ニーズに答えるため、屋根のブルーシート張りや、夜間における避難所周辺の巡回及び避難により留守宅となった避難者宅周辺の巡回活動などを実施したほか、消防団保有資機材をボランティアセンターへ貸し出すなど、被災者支援を中心とした消防団活動を展開しました。これらは、多様化するニーズに対し消防団として対応したもので、ある一定の責務は果たせたものと感じておりますが、発災時の対応だけではなく、消防団として被災者支援の対応をどうすべきものなのか、今回の経験を踏まえ検討してまいります。

消防団は、自らの地域は自ら守るという郷土愛の精神のもと、先人たちのご尽力によって発展し、今日広く信頼を得るに至っております。しかしながら、社会環境も変化し、少子高齢化や地域コミュニティの変容など、地域における防災活動の担い手を十分に確保することが困難になっています。近年は、災害も多様化し、その危険性も増大する中、時代のニーズに応じた対応が消防団にも求められるとともに、今後、南海トラフ地震など大規模災害の発生が懸念される中、消防団に対する市民の期待はますます高まっており、団員一人一人が強い意志と郷土愛の精神のもと、市民の負託に応えられるよう、地域に根差した活動を展開する所存であります。